

後援名義使用報告書

事 業 名	令和7年度後志教育研修センター調査研究事業報告会
主 催 者 名	後志教育研修センター
後 援 者 名	北海道教育庁後志教育局 後志町村教育委員会協議会 俱知安町教育委員会 小樽市教育委員会 後志小中学校長会 小樽市校長会 後志小中学校教頭会 小樽市教頭会 後志へき地・複式教育研究連盟 後志社会教育主事会
実 施 日 時	令和8年1月8日(木) 14:00~16:00
実 施 場 所	俱知安町文化福祉センター公民館 中ホール
対 象 及 び 人 数	後志管内教員、社会教育担当者、教育関係者 合計84名
入 場 料 金	無料
事 業 内 容	<p>(1) 学習指導に関する調査研究からの報告（3年次研究の2年目） 研究主題「授業力の向上と校内研修の在り方」～子ども主体の授業づくりを通して～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 研究の概要と推進計画について 2 研修講座・検証授業・指導案バンク・オンデマンドについて 3 今年度の成果と課題について 4 来年度に向けて <p>(2) 社会教育に関する調査研究からの報告（5年次研究の3年目） 研究主題「持続可能な社会に向け、地域の可能性を引き出す学びをつくる社会教育の在り方」～後志管内におけるコミュニティ・スクールと地学協働の現状と課題～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 調査研究内容について 2 コミュニティ・スクールにおける社会教育行政の役割と可能性について 3 次年度に向けて
事 業 成 果	<p><input type="checkbox"/> 事業内容（1）に係る成果</p> <p>2年次目の研究では、所員担当の研修講座と検証授業を通して、授業力の向上と校内研修の在り方について、「子供主体の授業づくり」について深化させてきた。</p> <p>単元の目標について子供と一緒に考え、全時間を見通して単元計画を作ることにより、子供たちと「何ができるようになるのか」「何を考えるのか」を共有することができた。</p> <p>また、板書型指導案の中に評価する場面や基準を明文化しておくことで教員側も指導する視点を明確にすことができた。「知りたい」「解決したい」という子供の思いを引き出すとともに、「一人で深めたい」「友達と相談したい」「先生のヒントが欲しい」といった、子供たちの多様なニーズに応じた場を保障し、教員が個々の状況を見極め、意図的に学習形態を繋ぐことで、課題に向かわせる子供主体の授業に取り組むことができた。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業内容（2）に係る成果</p> <p>3年次目の研究では、地域・学校・行政が連携して地域社会を持続していくための社会教育の役割について研究を推進してきた。管内の学校運営協議会と地域学校協働活動の現状や課題点について情報収集を行なった結果から、課題点と改善点を整理し、課題解決を目指してきた。</p> <p>「専門家の講義による知識の向上」「実施研修による想像力の向上」「実践力習得による技能の向上」を柱として、2度の管内研修会での講演会の実施や後志教育研修センター「学校と地域をつなぐ社会教育研修講座」での意見交換、2町村での実施研修を行ってきた。このことにより、『shiriBeshi』モデル作成の準備をすることができた。</p> <p>地域と学校が地学協働とコミュニティ・スクールのビジョンを共有し、学校教育と社会教育が互恵的な協力関係で地学協働を進めていくことの重要性を、共通理解することができた。</p> <p>※ 設立50周年を迎えた本年度、当研修センターの研究内容を更にわかりやすく管内に広めるとともに、道内・全国に発信し、各学校・教育委員会・教育関係機関のOJTに寄与できる研究を、より一層深める重要性を再確認することができた。</p>

令和7年度「設立50周年記念調査研究事業報告会」参加者の意見・感想等

令和8年1月8日（木）
県知安町文化福祉センター公民館中ホール

1. 学習指導に関する調査研究について

- 研修講座には参加していませんでしたが、校内の研究主題・副題をどう作っていくのかという方法について、よくわかる内容でした。
学習指導では、単元計画や単位時間の構成をどう作るかが、初任者層にもわかりやすいようにまとめられていたと感じました。
- 次年度の方向性を示していただき、具体的な内容が楽しみです。次期学習指導要領に備えた発展を期待します。
- 子供たちが主体的に関わるように、ゴールの明確化や、そのためにどのような力が必要なのかというのを、教員側がしっかりと把握しておくことが重要だとわかりました。
ラーニングマウンテン等、わかりやすい方法で示せることも、とても勉強になりました。
- 「学び続ける教師」「主体的な学び」どれも重要なキーワードであると、改めて感じることができました。
これらを実現するための新たな研修観への転換を学び、教師一人一人が課題をもって授業改善に取り組むことが大切だと思いました。
- とても勉強になる内容でした。今後、単元計画を指導案バンクにUPすることはできるでしょうか。1単位時間の授業は、それぞれの先生方でイメージを持っていると思うのですが、単元や章の見通しを持つことが難しいようです。
ラーニングマウンテンの頂きを知るだけでも、単元全体の流れが変わってくると思います。本校でも若手が苦戦しています。
- 日頃から、校内研究や学校運営で「検証」がなかなか思うようにいかないと悩んでいます。今回の発表でも「検証」が課題とのことですので、今後の研究成果をぜひ知りたいです。
- 研究内容をとても丁寧にプレゼンしていただき、勉強になりました。自校の研修につなげていきたいです。
- 学校に戻り、先生方と共有します。参加した以外の研修講座の内容がなかなかわからないので、よい機会でした。ありがとうございました。
- 校内研修や授業改善に役立つ内容が聞けて、良かったです。参加された人は、リアルタイムで学べたと思います。諸事情で参加できなかつた人にも、参考にできる内容でした。
指導案バンクも、とても良い取り組みだと思います。学校に持ち帰り、職員に広げていきたいと思います。ありがとうございました。
- 3年間での研修の在り方について、改めて考えさせられました。計画を立ててしまうと柔軟に変更できないケースも経験してきたので、本日の学びを自校でも活かしていきます。

○ 「授業力の向上と校内研修の在り方」という主題の下、単元のゴールから逆算した授業設計の具体例は、若手教員への指導に大変有効だと感じました。

各教員が自身の興味・関心に基づきつつ、学校全体で共通理解を図る「研究構想の確立」のバランスが重要であることを改めて学びました。特に、ＩＣＴを負担軽減と意欲向上の手段として位置づけ、教員自身が「学び続ける姿勢」を体現できる環境を整えることの必要性を強く感じています。

本報告の成果を自校の次年度計画に反映させ、組織的な授業改善を加速させていきたいと考えています。

○ 単元全体を見通した授業の大切さ、そして身につけさせたい資質・能力と評価を整合させることの大切さを、改めて感じることができました。

○ 形式論に甘んじることなく、主体的な学習者を育てる研究活動に取り組まれていることが素晴らしいと思いました。お疲れ様です。ありがとうございます。

○ 管内の優れた実践が集められた、素晴らしい調査研究報告会だと感じました。

10年後・15年後の世の中をイメージして、「子供たちにどのような力を身につけさせる必要があるのか」を考えた時、例えばラーニングマウンテンは、単元計画の立て方の指導に止まらず、ゴールを設定し、自分なりの道やスピードで歩む力を身につけさせることにつながる等、少し大きな視点で捉えていくと、汎用性もより高まると思いました。

○ 丁寧な資料に基づき丁寧な説明があり、わかりやすかったです。若い先生が意欲的に学んでいることが嬉しかったです。

○ 校内研修の展開の仕方が明確にわかり、どの学校でも使えるので、研修で悩んでいる学校があれば大いに参考になる発表でした。

○ 現在に必要な教育活動に関する研究であり、大変参考になりました。できればラーニングマウンテンについての成果と課題等も、もっと聞きたいと思いました。（すいません質問するとよかったです）

○ 最初のコマの報告は、せっかく詳しい資料を作っていたのに、報告に充てた時間が少なすぎた感がありました。センター所員の皆さんのが頑張りを、学校に還流できるように頑張ります。

○ オンデマンドや指導案バンク等、管内で授業作りを推進していくために必要な研修を提供していただき、ありがとうございました。

○ 「個別最適化を目指した授業づくり」「子どもを主語にした教育」というキーワードに、共感しました。また、日頃の教科経営に必要なことを再確認することができました。

○ 単元や1時間の目標を確認して授業を作ることなど、再確認することができました。

○ 指導案バンクが良いと思いました。研修センターが、各教育研究団体や各校の校内研究、授業改善に取り組む教員のハブ的な役割を、一層果たすことになると思います。【単元計画バンク】も、考えられると思いました。

若い先生たちの熱を感じ、刺激をいただきました。お疲れ様でした。ありがとうございました。

○ ラーニングマウンテンについて、以前聞いたことはあったのですが、詳しく聞くことが出来て良かったです。子どもも教員も、同じ方向を向いて学習を進められると思いました。ぜひ実践してみたいです。

2. 社会教育に関する調査研究について

- 少子化が進み、学校の規模をはじめ地域の過疎化が進む中、地域に住む人々が手を取り合い、学校が核となって「地域づくり」をしていく大切さに気付かされました。

多様化が進んだり、片親の増加等もあったり、子供と学校だけで育てていくのではなく、地域の大人たち全員で育てていくことが求められていると感じました。
- 「Shiribeshi」モデルの進化・発展・浸透を願っています。
- 学校運営協議会の仕組みや役割、目指しているところが、今まで何となくしかわかつていませんでしたが、報告会や助言等を聞いて、知ることができました。
- 地域・保護者・学校が、連携を一層深めることを求められていると感じています。双方にとってwin-winの関係を作り、地域が「学校に関わるのは良いこと」と感じ、子供たちも「この地域に生まれて良かった」と思ってもらえるようにしていきたいと思います。
- CSや地学協働の理念は、とても素晴らしいと思いつつ、うまく機能させていくのは簡単ではないと感じています。ですから「Shiribeshi」モデルが出来上がるのを、とても楽しみにしています。
- CSを進めるにあたって、コーディネーターの役割がとても大きいと思うのですが、このコーディネーターは必ずいるわけではないので、その点で取り組みに差が出るようと思いました。
- CSの役割について、考えさせられました。学校と地域の人の目的が違っても、「子供たちのため」というところを、大切にしたいです。
- 社会教育の内容を聞くことができ、大変勉強になりました。現在の市町村の社会教育担当者の方にも大変お世話になっているので、改めて知ることができてよかったです。
- 以前、勤務していた市町村と現在の市町村のCSの在り方が異なり、少し歎息の思いがありました。コミュニティ・スクールの理念や発想を理解がもっと進み、前向きに関わる教員が増えると、後志管内の各地で意義あるものになっていくと思います。
- 地域の方々の顔と思い・先生方の顔と思いが認識し合える学校になるよう、各校での草の根的な理解が進むようにしていきたいと感じました。
- コミュニティ・スクール（CS）の形骸化を防ぐための鋭い分析に、深く共感いたしました。例示された市町村のように、力量あるコーディネーターが機能している事例は大変理想的ですが、多くの学校現場では体制整備が先行し、実務負担の増加に苦慮しているのが実情です。先進事例をそのまま自校に照らすだけでは実感が湧きにくく、むしろ「力を入れるほど現場が疲弊する」という懸念が、導入を足踏みさせる一因ではないかと痛感しました。
- 各町教委が学校と痛みを分かち合い、いかに持続可能な協働体制を構築できるかが眞の課題です。行政と現場の橋渡しを担い、承認だけの場に終わらせないための「現実的な一歩」を、模索してまいりたいと思います。
- 自身の現任校と地域の学校運営協議会をよりよく活性化させるためのヒントを、いただきました。
- 「足踏み状態」と聞いて、少しほっとしました・・・。望ましいことではありませんが。「Shiribeshi」モデルをつくろうという試みは、素晴らしいと思います。期待しています。お疲れ様です。ありがとうございます。

○ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進することが求められていますが、本校を含め多くの学校で、実質学校側が主体となってCSを運営し、熟議の場を用意するとともに、そこから生まれた案を実践する実働組織となってしまっています。

地域学校協働活動を機能させたり、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進したりしていくためには、地域コーディネーターの存在が必須と考えますが、この地域コーディネーターはどのように立てたらよいのでしょうか。また、どこが主導すればいいのでしょうか。例示された市町村のように、委員会にコーディネーターがいてくださると進みがよいと感じました。

○ 教育委員会が主体性を発揮できるよう、研究成果が各町村に還元され、管内全体として学校運営協議会の活動内容が理解されると良いと感じます。

○ 社会教育の研修会の実際を知ることができ、大変勉強になりました。

○ CSは発展途上ということがわかりました。ただやれば良いのではなく、地域と学校が連携していける取り組みが大切だと、改めて感じました

○ CSに関する件で、本校でも現在、小中でのSCの在り方を模索しているところです。色々なご示唆をいただき、良い研修となりました。

○ 「CSをどう活用するか」について、学校現場では悩みであります。予算に限りがあり、会議の回数を増やせないため、内容に進展が見られません。来年度の調査研究にも、大変期待しております。

○ コミュニティ・スクールに一般の方が参加できると、より活発になるのは分かりましたが、スタート時の人選の仕方や広げ方について、どのようにするべきなのか伺いたいと思いました。

○ 「地域・家庭・学校」の三本柱で学校を運営することが求められる現代において、コミュニティ・スクール、学校運営協議会の重要性は年々増しているように感じます。変化の激しい世の中を逞しく生き抜くためにも、様々な人との関わりを経験し、様々な考え方や愛情を子どもたちが受け取ることは必要だと思いました。

○ CSにおいて、学校と地域が互いに良い効果があることを考える機会となりました。

○ CSを活用して、学校の教育活動の質の向上と地域の活性化を有機的に結び付けられたらと思うのですが、難しいのが実情です。本日のお話をヒントに少しづつ前進できたらと思いました。ありがとうございました。

○ 普段聞くことができない話で、勉強になりました。色々な立場の方から学校を支えてもらっているのだと感じました。

3. 「調査研究事業報告会」 全体を通して

- 日々お忙しい中、後志教育の向上、若年層教職員の資質・能力の底上げのためご尽力されていることを、本当にありがとうございます。右も左もわからない若年層教職員が、やりがいをもって精一杯働くよう、これからもサポートしていただければと思います。
- 進行のテンポが良く、参加しやすい報告会だと感じました。ありがとうございました。
- 今回、初めて参加させていただきました。研修センターの研修講座の話や社会教育の話など、たくさん勉強になりました。ありがとうございました。
- 調査研究報告会で学んだことを本校で還元し、3学期からの教育活動に活かしていきます。
- 一般の先生方に、もっと広く聞いてほしいと思いました。
- 参加者がとても多く、感激しました。
- 成果と課題を聞くことができ、大変参考になりました。また助言者である後志教育局主査や主任指導主事の方の最新情報を聞くことができて、良かったです。ありがとうございます。
- 主任指導主事の「振り返り」のお話がとてもわかりやすく、納得できました。どのような振り返りの言葉になっていれば良いのかを、よりクリアにイメージできるように意識していきます。

これまでの実践・まとめ、そして調査研究報告会へ向けての準備等、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

- センター設立50周年の節目に、管内の教育課題が凝縮された報告を拝聴し、本会の存在意義を再認識いたしました。

学習指導における「子どもを主語にした授業」への転換と、社会教育における「持続可能な地域連携」は、どちらも学校の在り方を問い合わせ車の両輪です。主任指導主事の助言にもあった通り、市町村等の好事例に学びつつも、各校が抱える負担感や現実的な乖離をどう埋めるかが課題です。形だけの組織にせず、コーディネーターの配置を含めた町教委との連動を深める必要があります。

本会の成果を単なる報告で終わらせらず、現場の痛みに寄り添い、自校の組織運営に繋げてまいりたいと存じます。

- センター関係者の皆様、本日はありがとうございました。
- もう少し若い世代の先生方が集まれると良いと思いました。
- 調査研究事業の推進のために、研修講座事業を活用して速いフィードバックを得るなど、限られた回数や時間の中で研究が前に進むように工夫されていると感じました。
- 学校教育の充実と社会教育の充実の両方について考えることができ、貴重な学びの機会となりました。
- この時期の集合研修は危険を伴います。ぜひZoom等での開催を希望します。
- 本当に意義深い研究事業報告会でした。ありがとうございました。
- とても良かったです。
- 貴重な機会を提供いただきありがとうございました。いただいた資料を自校でも共有し、校内研修の推進に活用していきたいと思います。ありがとうございました。
- 再確認する良い機会となりました。
- 一般の先生方の多さに驚きました。後志におけるセンターの役割とセンターへの信頼感がはっきりと感じられました。良い機会をありがとうございました。

4. その他

- 意見です。このような研修を若年層の教職員に向けて行うことは、大変有意義であると考えます。しかし、それ以上に時代の変化になかなか追いついていくことに困難を示すベテラン層の教職員にも研修が必要と考えます。若年層の教職員への教育、ベテラン層の教職員の変革、この2つが成り立つこそ、時代に合った「学校づくり」ができると考えます。
- 所員、事務局の皆様、1年間大変お疲れ様でした。
- 日々の学校教育現場・社会教育現場での勤務の傍ら、管内の教育発展のためにご尽力をいただいている所員の皆様、どうもありがとうございます。
- 誠に、ありがとうございました。
- 年度末ということもあり、旅費の捻出が大変でした。
- 冬であることや旅費がないこと、在宅勤務でも対応できることなどからも、Zoom やオンデマンド配信になるとありがたいと感じました。
- 社会教育も含めての報告会の在り方、大変よかったです。学校教育と社会教育の相互理解が今後ますます進めていく場づくりを、意識したいと思います。
- 両調査研究委員会の資料を校内で回覧するとともに、学校課題の改善に向け、一部抜粋して有効に使わせていただきたいと思います。本日はありがとうございました。
- 本来業務を行いながら、研修センターの業務を進める事は大変なことだと思います。貴重な学びの機会を、ありがとうございました。
- 研修センターの講座が充実し、午後開催も定着したため、参加希望が大変多くなりました。センターの皆様や講師を引き受けてくれた先生に大変感謝をしています。来年度も、よろしくお願ひします。
- ありがとうございました。